

● **週刊ニュース 700 号発行祈念祝賀会開催 5 日（木）** 13 年半の長きにわたり週刊ニュースが発行されてきました。会員各位への情報の共有を狙いに新しいつながりを深めあうものとして位置づけられました。発行にあたり、配布問題や継続発行を原則する課題、週刊発行と原稿についてなど課題を多く抱えた前途多難な出発でした。そして、発行の必要性意義は理解できるが、負担が重すぎるといったことで論議が重ねられました。郵送などとても負担できないという財政上の意見が重くのしかかりました。しかしこうした実行する前の取り越し苦労は大きな課題のように見えてましたが、取り組んでゆく中で徐々に解決が図られました。とにかく身近なところで手配りを始めようと決意し、皆様のご苦労によって、継続されてきたことに大変大きな意義があります。これまで 13 年半毎週欠かさず届けてくださった努力に頭が下がります。また、今の時代はデジタル化とかパソコンとかの時代といわれ、メール配信もなかなか大切な通信手段です。これにも連続して 700 回を送信いただいたことに感謝しなければなりません。何よりもほとんど毎週イベントなどがあって、多くの会員諸氏の活動へのかかわりがつながって、記事やネタが生まれてくるのです。こうした基本ネタを生み出してくださる方々が多数おられて 700 回の発行を築きあげてこられたのです。かかわっていただきました皆様に成り代わって、手配りの皆様とメール送信を途切れることなく発信いただいた方々に、慰労を兼ねてささやかな慰労の場を持ちました。よく記録は通過点といわれますが、これを機にさらに力を振り絞って、さらなる躍進のために、自然を大切に仲間の輪を大きくするために頑張ってください。

● 700 回を祈念に感謝状を贈呈させていただきました、代表的な贈呈文を紹介させていただきます。

□「あなたは、パソコン教室の指導者として週刊ニュースの発信者として多大の尽力をいただきました。700 回連続への達成をいただき功績は真に偉大であります。よって里山の会功労者として表彰いたします」
「週刊ニュース創刊号より手配り作業を受け持ち、自転車による 700 回連続配布をいただきました。風雪に耐えて自転車を用いて広範囲に及ぶ配布は真に偉大であります よって感謝状を贈呈いたします」贈呈者氏名＝白木弘一氏、伊藤千恵子氏、坂田一郎氏、森島保氏、森幾久子氏、山本雅晃氏、大村幸正氏、黒光輝政氏の 8 名の皆様に贈呈させていただきました。各位にはそれぞれ個別の評価文面になっています。

● **第 35 回京都木津川マラソン大会の準備進む今年で 35 回目を迎える京都木津川マラソンに里山の会がかかわって、今日では重要なポジションを担ってなくてはならない役割を果たしています。**スタートとゴールを受け持つ本部会場も大切ですが、それ以上に 42,195 km の長距離のコースが重要になります。このコースの維持管理、安全面などの保持と整備が特に重要です。年間を通じて問題なく 6000 人の選手が走り切れるように心配りをしていくことが何より大切です。ここも里山の会が全面的に担って大会の成功を支えているのです。また数多く設置されているエイドステーションのうち里山の会が受け持っている手原川エイドは終盤体力を使い果たしている位置にあり、ここでの応援に勇気づけられたという方々は数多くおられます。完走する山場で応援をするエイドの役割も大きいものです。また本部会場でゴール後のひと時の休憩に憩いを与える焚火のもてなしは疲れた選手への素晴らしい贈り物でもあります。不法駐車防止のための整備金負担の駐車場の確保や選手輸送のタクシーの取組み等それぞれ全国各地から集まってくる皆さんへのささやかですが、下支えの場面を受け持っています。現在のところ当日のボランティアを了解いただいている皆さんは 48 名となっております。さらに多くの方のご参加をお願いしています。ご協力ください。

● **七草摘みと七草粥を味わう会 6 日** 里山の会で新年早々開催するイベントが七草摘みと七草かゆを味わう会です。今年で 20 回目となりました。これまで最高の参加者は 2009 年の木津川田辺公園での 80 名でしたが、今年は 25 名の参加がありました。今年の特徴はシンプルなプログラムで、進行しました。プログラム時間の関係で事前に摘み取って粥用のものを用意してきたのですが、当日摘み取って洗って刻んでという初回と同じ手順を取りました。そして囃子歌は全員が上手に歌って心が一つになりました。出来がっている芋粥や黒米粥、そして七草粥三種類を順番にいただき、1 年の無病息災を祈りました。

今年の参加者で京都市からのご家族が鶏を連れてこられていました。日頃はベランダでの飼育をされているとのことでしたが、里山農園に放され、元気に新芽をついばみ、途中卵を産んでくれました。一躍みんなの人気者となりました。産みたての暖かい卵に感激をしました。

● **カスミサンショウウオ生息池の気温水位水温の自動記録装置が稼働し測定が開始される** 6日 13:30 に七草摘みの片づけを終了してのち、引き続きカスミサンショウウオが生息する上池と下池の2か所に自動的に気温や水位や水温を測定記録装置の設置を行いました。打田の地主・瀬戸さんの了解を受けて、単管を組み合わせ、測定器を設置しました。15時から測定が開始しました。これはある企業に勤務されている参加者から現在使用の計画がないので使ってもよいと申し出を受け、借用し、しばらくの間使わせて頂くことになりました。長年なんとか自動測定を行いたいと思っていましたが、やっとのことで実現できました。これで地域の環境が測定でき、カスミサンショウウオの生息条件が記録されることになりました。すごい前進になります。里山の会の生き物の世話役を担っている金田さん（カスミサンショウウオの成体の発見者の一人）も大変喜んでいただいています。

● **河川協力団体の新年度の活動内容をまとめる** 今年度の活動で最も大きな成果といえば、国交省が里山の会への業務の発注があったことと思われます。そして希少種生育調査と除草作業ということになり、20年間国交省に要求してものです。これに重い腰をやっと上げて実現したものです。2017年度の作業調査の実績を引き続き2年目にも実施することに加える里山の会が考えている活動についてのヒアリング行われました。里山の会では希少種生育調査の21カ所を27カ所に、そして除草面積を4割増しとなる報告を提出しました。そして・河川敷生育の竹のマップ化やパウダー化そして堆肥化、・住民が発言できる場である木津川の保全や利用についての川づくり委員会の設置、・淀川大学の開設、・伊セパう池の点検整備充実、・第2回京都府子どもの水辺の開催、・木津川流域センターの教育広報施設の充実を提案しました。協議の中で・薪割りを使った住民への伐木利用、・中聖牛への通路確保、・中聖牛や竹蛇籠での地形や生き物調べなどが話題になりました。

● **整備協力金負担駐車場の準備が整う** 35回京都木津川マラソンは2月4日に開催されます。整備協力金負担駐車場の設置は、不法駐車の発生を防ぐ役割を担って行ってきました、年間を通じて雑草の刈取りを行い繁茂を防ぎ荒れた土地への修復など年間を通じて整備を進めています。東と南の予定地の管理業務のうち最後の清掃作業が行われました。ゴミ拾いや雑木の伐採等終日にわたる作業でした。直前にもう一度刈取り作業を行って当日を迎えることになります、

● **木津川はどんな川の説明展示会の開催概略を決める** 2017年度の京都府地域力再生プロジェクト事業交付金申請で、「木津川はどんな川」と題して出前展示会を開催することになっています。年度末を前に、これまで調査観察してきた成果を展示を発表し、資料に基づく説明解説会を行います。この活動を通じて木津川をさらに身近にしていきたいものと考えています。現在のところ次のように予定をしております・2月11日八幡市文化ホール・2月18日宇治市南部コミセン、・2月24日城陽市男女参画支援センター、・3月3日京田辺市中央公民館、・3月4日木津川市泉ホールの五か所を予定しています。

● **薪割り機を使って薪割りをしましょう お手伝いをお願いします** 先週号でお知らせいたしましたが、草内倉庫に運び込んだ原木の薪割りを行い広場の確保を行いたいと思います。これはマラソン大会の備品を点検整備する上で広場の確保が必要なのです。日程があまり残されていません。できるだけご協力にお越しくください。二人が揃えば能率よく作業が進められます。そして出来上がった割り機の処分については軽トラックの荷台の筋切れ一杯分を3000円で売却する予定です。運賃として500円を負担いただくことになります。30分以内なら配達が可能です。ご友人にご紹介ください。先着順で配布いたします。売り切れ御免となります。

● **案内** 歴史に学ぶ広域観光ルート 1月14日 八幡市文化センター小ホール講演「周遊観光の今昔」落語「三十石」「パネルディスカッション・歴史に学ぶ広域観光ルート」が行われます。ご参加ください